

2 各学年

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
1 学 年	①基本的な生活習慣の確立	遅刻、早退、欠席をせずに、集中して授業に臨めるよう指導する。	宅習記録を使用し、生徒の生活習慣の乱れや、気持ちの変化を早期にとらえ、適切な指導、対応により活気ある学校生活へとつなげる。	A	A
			きまりと時間を守ることの意義を浸透させ、規律正しい高校生活を送らせる。	A	
	②確かな基礎学力の養成	学習習慣を早期に確立させ、授業をとおして、基本的知識とその活用能力を養成する。	授業の大切さをくり返し指導し、予習・授業・復習（学習到達度確認問題）の学習スタイルを定着させる。	A	A
			自宅学習の習慣を定着させる。	B	
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図る。	A	
			1年生第1回スタディーサポートから2年生第1回スタディーサポートにかけて、GTZが上昇した生徒が80%以上であることを目指す。	A	
	③主体性、探究心の醸成	将来の目標や理想像を自ら設定し、自分の人生を自分でデザインしていく能力の基礎を養う。	新入生研修、進路説明会や各種講演会をとおして、自己を見つめ、将来について考える機会を年間を通じて計画的に設ける。	A	A
生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。			A	A	
2 学 年	①学習を中心とした生活習慣の確立	遅刻、早退、欠席をせずに、集中して授業に臨めるよう指導する。	宅習記録を活用し、生徒の生活習慣の乱れや、気持ちの変化を早期にとらえ、適切な指導、対応により活気ある学校生活へとつなげる。	A	B
			予習・復習、週末課題に取り組み、自宅学習4時間以上の習慣を定着させる。	C	
	②確かな基礎学力の完成と応用力の養成	各教科の基礎的知識・技能を定着させ、論理的思考力、判断力、表現力の向上を図る。	日々の授業や学習到達度確認問題を実施する中で、学習した内容を反復学習させ、確実に理解させる。	B	B
			授業等で大学入試を意識した発展的内容にも触れさせ、基礎的知識・技能をどう応用に結びつけるか考えさせる。	B	
			レポート作成や発表活動などをとおして、論理展開に注意し、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための表現力を養う。	A	
	③主体性、探究心の醸成	将来の目標や理想像を自ら設定し、自分の人生を自分でデザインしていく能力を養う。	進路説明会や各種講演会、志望理由書作成等をとおして、自己を見つめ、将来について考える機会を年間を通じて計画的に設ける。	A	A
			生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	A	A

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
3 学 年	①自己のあり方、生き方を決定できる主体的な人間を育てる ②課題解決のために協働し、多様な他者と共生する人間を育てる ③自ら学び続け、その知識・情報を活用できる人間を育てる	学力を向上させ、難関大を含む国公立大学等、自らの進路希望を達成させる。	生徒のやる気を喚起し、学力向上に資する授業を実践する。	A	A	A
			授業重視の態度を育て、出席率98%以上を目指す。	B		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な内容についても理解させる。	B		
			模擬試験、自習会、学習合宿などを実施し、基礎力・応用力を養成する。	A		
			大学進学率90%以上を達成する。	A		
		生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談、三者面談を適切なねらいのもとで実施する。	A	A	
		生徒理解を深め、生徒の進路選択の手助けをする。	個別面談及び進路に関する検討会を、明確なねらいのもとで実施し、生徒の進路選択の手助けをする。	A	A	